

学校自己評価結果の公表について

本校では、文部科学省が示す「学校評価ガイドライン」に基づき、教育活動および学校運営の改善を目的として、学校自己評価を実施しました。自己評価にあたっては、全教職員を対象とした自己評価アンケートを実施し、教育方針、学習指導、生徒指導、進路指導、地域との連携等について、多面的に意見を収集しました。アンケート結果については校内で共有するとともに、管理職および教職員による十分な協議・検討を行った上で、教育活動および学校運営に関する成果と課題を整理しました。

また、得られた意見や分析結果を踏まえ、キリスト教精神に基づく本校の教育理念を再確認しながら、次年度以降を見据えた教育活動および学校運営の改善方策を具体的に検討・決定しました。これらの取組は、自己評価を単なる点検にとどめることなく、「計画（Plan）—実行（Do）—評価（Check）—改善（Action）」の改善サイクルを意識し、学校全体で継続的な質の向上を図るものです。

本校では、今後も教職員の意見を積極的に生かし、保護者および地域の皆様への説明責任を果たしながら、より良い学校づくりに努めてまいります。

1 評価の対象年度

2025 年度

2 評価の観点

本校の教育目標を踏まえ、次の観点から自己評価を行いました。

- (1) 教育方針・学習指導
- (2) 学習環境・教育活動
- (3) 進路指導
- (4) 生徒指導
- (5) 地域との連携
- (6) 学校運営全般

3 自己評価の結果（概要）

教職員自己評価アンケートの結果から、多くの項目において「できている」「概ねできている」とする肯定的な回答が多数を占める結果となりました。

(1) 教育方針・学習活動について

教育方針の共有や授業改善への意識、基礎・基本の定着を意識した指導について、一定の成果が認められました。一方で、学習内容の理解度に差が見られることから、より一層の授業改善や個に応じた指導の工夫が課題として挙げられました。

(2) 進路指導について

生徒一人ひとりの希望や適性に合った進路指導が行われているとの評価が多く、進路意識の向上に向けた取組が一定の成果を上げていることが確認されました。

(3) 生徒指導について

基本的な生活習慣の確立や、安心して学校生活を送ることができる環境づくりについて、高い評価が得られました。生徒理解に基づいた指導が継続的に行われている点は、本校の強みであるといえます。

(4) 地域との連携について

地域行事への参加やボランティア活動、地域団体との交流を通して、生徒が社会性や人の役に立つ喜びを実感しているとの肯定的な評価が多く見られました。地域とのつながりを生かした教育活動が定着していることが確認されました。

4 今後の改善方策

自己評価の結果を踏まえ、今後は次の点を重点改善事項として取り組んでいきます。

- (1) キリスト教精神に基づき、互いを尊重し、思いやりと奉仕の心を大切にした教育活動をさらに充実させ、生徒一人ひとりがかけがえない存在であることを実感できる学校づくりを進める。
- (2) 授業改善や学習支援の工夫を通して、生徒の学力の定着と学習意欲の向上を図るとともに、生徒の個性や理解度に応じたきめ細かな指導体制を整える。
- (3) 生徒が自ら考え、行動し、他者と協力しながら成長できるよう、学校行事や日常の教育活動の中で主体性と責任感を育む指導を継続する。
- (4) 地域団体や学童保育、福祉施設等との連携を生かしたボランティア活動や交流活動を通して、人の役に立つ喜びや社会に貢献する姿勢を育てる。
- (5) 教育活動や学校運営の成果と課題について、保護者および地域に分かりやすく発信し、信頼関係を基盤とした開かれた学校づくりを推進する。

5 おわりに

本校では、自己評価を単なる点検にとどめることなく、教育活動および学校運営の改善につなげる重要な取組として位置づけています。今後も、本評価結果を踏まえながら、教職員一同が共通理解のもとで改善に取り組み、地域に根ざした信頼される学校づくりを進めてまいります。